HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	価値形態論および貨幣生成論理への再考 ： 宇野経済学における「形態的な同質性」の論理に基づいて［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	You, Xinwei
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(経済学)
Dissertation Number	甲第14615号
Issue Date	2021-06-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/82638
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	You_Xinwei_abstract.pdf, 論文内容の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（経済学）　　氏名：尤 歆惟

学位論文題名

価値形態論および貨幣生成論理への再考
――宇野経済学における「形態的な同質性」の論理に基づいて――

宇野弘蔵の価値理論は次の二つの特徴がある。(1) マルクスの投下労働＝価値実体の前提を諦めて、商品の純粋な流通形態から商品価値を検討する。(2) 価値形態を検討する時、交換主体である商品所有者の存在を強調する。したがって、宇野のいわゆる商品の「質的一様で単に量的に異なるにすぎない」一面である同質性規定は、マルクスが抽象的人間労働に基づいて商品に賦与する「実体的な同質性」と異なる、いわば「形態的な同質性」をなしている。しかし、価値実体の支えが失われると、こうした「形態的な同質性」は、単なる知覚可能な現象世界に陥り、その独立性および内在性も失われる恐れがある。この問題について、宇野経済学においては次のような二つの見解が存在する。山口重克を代表とする理論は、こうした形態的な同質性をマルクスの実体的な同質性論理の残滓とし、「同質性」の代わりに「交換性」で商品価値を規定するべきであると主張している。小幡道昭を代表とする理論は、商品の予備的富の性格を導入することによって、価値概念の単なる交換性と融合し切れない内在性の一面を支えようとしている。

本稿は、価値概念の内在性を主張しようとするが、これを、商品そのものが有する富の性格に基づいて理解するのではなく、商品所有者の交換を求める行動において理解するべきものである、と考えている。こうした見解を論述するために、次の二つの課題を解決する必要がある。まず、商品所有者による交換を求める行動の内に商品の価値関係が触発される根拠を明らかにしなければならない。これを実現するために、宇野弘蔵は価値形態の第一形態において提出した商品所有者の交換要請を分析し、その内に存在する欲求関係と価値関係とを区別して、この二つの関係の異なりと関連性とを解明する必要がある。次に、商品所有者の交換を求める行動の論理に沿って価値形態の移行および一般的等価物の生成の原理を検討しなければならない。間接欲望の対象である商品に要請される富の性格、そして一般的等価物として選ばれる商品に要請される材質の特性も、その検討において、人間の交換を求める行動の過程の内に理解されるものになる。この二つの課題に対する研究は、交換を求める行動という行動論的なビジョンにおいて価値概念の内在性と価値関

係の実現問題とを合わせて理解するものとして、価値形態論および貨幣生成の論理に対する再考をなしている。

なお、商品交換は、商品という外的な対象を媒介にして実現される人間行動であるから、交換を求める過程において触発され、そして貨幣によって実現できた価値関係は、商品という外的な対象に担われて実現されるものでなければならない。商品の物体性が、価値関係の実現に対して重要な役割を果たしている。物に担われるからこそ、内属性としての商品価値は物自身が有する客観的性質かのように見え、そして「同質性」の関係として現れるようになる。こうした同質性関係は、横的側面から見れば、商品の交換の比率関係は単なる偶然的、相対的なものではなく、まるである内実に支えられて、安定性があるものであるという特性として現れ、縦的側面から見れば、同種商品における単位商品は、交換される際に同じ評価を受ける傾向がある特性として現れる。商品の物体性の、価値の同質性規定の実現に対する役割への検討は、商品の物体性の視角から、商品所有者の交換行動によって価値関係の触発および実現という本稿の問題関心に対する重要な補足をなしている。